

I 弱視視能訓練 III 抑制除去・同時視訓練
IV 対応異常矯正訓練 VII 眼球運動訓練 } に適応

(5) 完全遮閉法: occlusion

参考) 視能学第2版 P428~433

主に弱視の予防・治療として



中川真紀: 視能学第2版 P430 図6 一部トリミング

7. 眼鏡処方関係—児童・小児の眼鏡処方②の項から屈折矯正を行い、年齢・視力(固視状態)・眼位を考慮し表を参考に遮閉方法を決定し、保護者に目的や方法を説明し、説明書があれば渡す(別紙参照)

一般的に健眼の完全終日遮閉が有効と言われているが、年齢などを考え遮閉弱視に注意! 又、遮閉時間や期間は病院により様々。

目的 深井小久子: 視能矯正学P373、374

診断目的

- ・眼球運動抑制の有無
- ・斜視のタイプの判断(調節要素、融像能力)
- ・眼性斜視の麻痺筋の診断

治療目的

- ・抑制除去訓練
- ・網膜対応異常の矯正
- ・術後の眼球運動制限の緩和

予防目的

- ・弱視の予防
- ・網膜対応異常の予防
- ・外眼筋麻痺の二次的痙攣の防止

表 山本裕子の参考例) 遮閉眼と遮閉時間について 視力は矯正視力とする

年齢	斜視有無	中心固視(+)(±)		中心固視(-)	
		固視交代可能	固視交代困難だが可能	固視交代困難	固視交代不可・固視不良
0~2歳	有り	屈折矯正眼鏡と1時間/1日 健眼・患眼1日交代で遮閉(念の為の弱視予防)	屈折矯正眼鏡と2時間/1日 健眼2日・患眼1日遮閉	屈折矯正眼鏡と3~4時間/1日 健眼4日・患眼1日遮閉	屈折矯正眼鏡と5~8時間/1日 健眼4日・患眼1日遮閉
		両眼開放時はプリズムと屈折矯正眼鏡装用			
3~4歳	無し	患眼の視力が健眼の半分以上(例: 視力0.6と0.4)	患眼の視力が健眼の半分未満(例: 視力1.0と0.4)		
		屈折矯正眼鏡と2~3時間/1日 健眼毎日遮閉	屈折矯正眼鏡と4~6時間/1日 健眼毎日遮閉	非遮閉時は屈折矯正眼鏡装用	
5歳以上	有り	患眼の視力が健眼の半分以上	患眼の視力が健眼の半分未満	偏心固視	
		屈折矯正眼鏡と3~4時間/1日 健眼毎日遮閉	屈折矯正眼鏡と4~6時間/1日 健眼毎日遮閉	終日 健眼毎日遮閉から1~2時間両眼開放	
		両眼開放時はプリズムと屈折矯正眼鏡装用			
5歳以上	無し	患眼の視力が健眼の半分以上	患眼の視力が健眼の半分未満		
		屈折矯正眼鏡と1~2時間/1日 健眼毎日遮閉と字ひろい	屈折矯正眼鏡と3~5時間/1日 健眼毎日遮閉と字ひろい		
		両眼開放時は屈折矯正眼鏡装用			
5歳以上	有り	中心固視	偏心固視		
		屈折矯正眼鏡と1~5時間/1日 健眼毎日遮閉と字ひろい	狭義の pleoptics 患眼遮閉		
		両眼開放時はプリズムと屈折矯正眼鏡装用			

遮閉具の貼り方(両眼を閉眼させ眉毛に接着面が付かないように上部から下部の順に貼り、皺がなく全周接着させ、眼鏡はその上から装用する)・剥がし方(眉根部側の一端を指先で少し剥がした後、耳側へゆっくり剥がす 視能学 P428 から抜粋)を患児に行いながら保護者に説明し、患児の行動を観察する

近業作業を行うように指導する

ビーズ通し、ぬり絵や電子ゲームもOK。

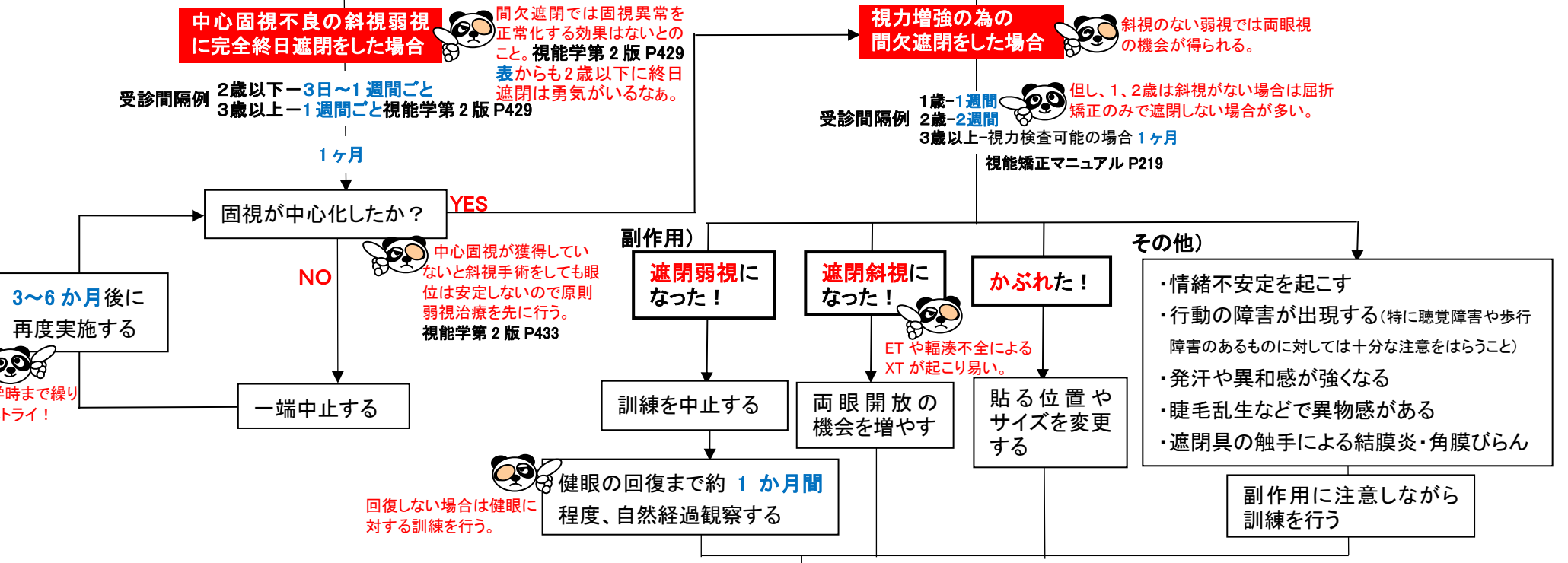
著しい行動阻害があれば中止し、アトロピン遮蔽も考慮。不完全遮閉法の項参照

2歳以下—3日後
3歳以上—4日後 視能学第2版 P429

間欠遮閉の場合はもう少し期間をあけてもよい。

遮閉具を貼ったまま来院させ、弱視眼の固視の状態を観察し、遮閉具を剥がして健眼の状態を観察し斜視の場合は弱視眼優先固視であれば再度15分以上時間をあけて再検査し、固視状態の把握をする

固視検査、眼位検査、可能なら視力検査を行う



その他の例)

1歳まで	1日の健眼遮閉を2時間	視力検査はPL法、OKN抑制法、VEPIによる方法
2歳まで	1日の健眼遮閉を3~4時間	
3歳まで	1日の健眼遮閉を5~6時間	
4歳以上	健眼の視力に注意しながら、健眼遮閉を可及的長く続行(終日)	

Von Noorden の例)

1歳まで	3日間健眼、1日間弱視眼遮閉	視力検査はPL法、OKN抑制法、VEPIによる方法
2歳まで	4日間健眼、1日間弱視眼遮閉	
3歳まで	5日間健眼、1日間弱視眼遮閉	
4歳以上	健眼の視力に注意しながら、健眼遮閉を可及的長く続行(終日)	

弱視治療のチェック項目) 内田冴子: 視能学 P453

YES

- ・最高視力は出せたか?
- ・固視は安定した中心固視か?
- ・抑制は除去できたか?
- ・中心窩融像と融像幅は獲得できたか?

症状により6ヶ月~2年

再チェック項目) 中村桂子: 視能矯正マニュアル P226 表5 一部割愛

NO

- ・眼鏡を常用していたか?
- ・遮閉を実際行っていたか?
- ・眼鏡の度数はこれで良いか?
- ・固視の異常はないか?

遮閉状態を毎日記載させたり微小斜視弱視などが隠れていることもあり、約3~6ヵ月をめどに再検討し、無駄に治療を長くさせないこと。

目標)

- ・両眼視の発達前である乳幼児では固視交代が随意に起こる
- ・単眼視力の向上、読み分け困難の解消
- ・両眼開放視力の視力維持
- ・良好な両眼視機能の獲得(立体視)

補足) 両眼視機能の獲得条件

- ・生理的複視の認知
- ・3Dアートでの立体視の確認
- ・定量的には Titmus Stereo Tests で 60秒以上

栗屋によると 3歳以前 100arc sec
3歳以上 40arc sec

約6ヶ月 → 視力の安定後、徐々に治療を漸減する

治療の確定は終了後5年。
植村森夫: 眼科 MookNo.10 P1~11

例)

アイパッチ®訓練について

①アイパッチ®を行う理由は？

良いほうの目をかくし、視力に左右差があったり斜視の場合に視力が低下している目を積極的に使わせて視力の発達を促すためです。

②アイパッチ®の行い方は？

- 右 ・ 左 目に1日 時間、アイパッチ®をはってください。
- アイパッチをしている間は、積極的に目を使いましょう。
(例えば、絵本を読む、お絵かきをする、ゲームをするなどしましょう)
- 継続することで効果がみられます。

③アイパッチ®の期間は？

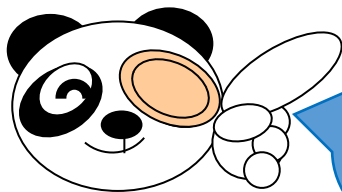
症状やきちんと行っているかによって違ってきます。きちんと行えれば、早くにアイパッチを終了することができることが多いです。ただ、目標視力に達したからといってすぐにアイパッチを止めてしまうとまた視力が低下することがありますので、目標視力に達しても少しずつアイパッチの時間を減らして慎重に様子を見る必要があります。

④注意することは？

- 肌に直接アイパッチをはるため、皮膚かぶれを起こすことがあります。
毎回少しずつはる位置をずらしたり、種類をかえたりしてみてください。
- 片目をかくすため、見える範囲が狭くなります。室内で行い、近くで物を見させるようにするとよいでしょう。
- 保育園や幼稚園や小学校に行く場合は、アイパッチが治療であることを先生からクラスの友達によく説明してもらってください。
- 時にはアイパッチをした良いほうの目の視力低下が起こる場合がありますので視力の確認をするため、受診日には必ず来院してください。

⑤アイパッチ®で斜視は治りますか？

原則的には治りません。しかし、左右の目の視力が同じになることで、斜視手術をしてからの経過が良くなります。



はる目を間違えないでね！

よく見える目をかくすため、見えにくくなり嫌がったり、精神的負担を感じたりします。少しでも楽しく訓練を行うために、アイパッチにお子様の好きな絵を描いたりして、工夫してね。
ご家族の方の協力が視力の向上につながります。
みんなで協力しましょう！

ご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡下さい。

〇〇病院
〇〇県〇〇市〇〇町
電話〇〇〇〇〇〇〇〇

遮閉法の種類

